

# 資料、1

平成30年度 第1回 ライフステージ事例検討会 報告書	
日時	平成30年6月5日(火) 17時45分～19時20分
開催施設 参加者数	金沢大学 3名、富山大学 4名、福井大学 6名、石川県立看護大学 6名、信州大学 4名、金沢赤十字病院 2名、石川県済生会金沢病院 5名、公立松任石川中央病院 8名、石川県立中央病院 18名、富山県立中央病院 13名、富山市民病院 7名、富山赤十字病院 5名、富山県済生会高岡病院 2名 ※黒部市民病院は通信トラブルのため参加できず。飯田市立病院、高岡市民病院:不参加。 金沢医科大学 公立能登総合病院、厚生連高岡病院は参加者なし。 国立病院機構金沢医療センター は通信トラブルのため途中中断。 合計 97名
テーマ	「多くを語らない壮年期終末期がん患者と家族への意思決定支援」
発表者	富山県立中央病院 岡崎 岬
<b>【意見交換内容】</b> DNARによって処置や対応が変わることもあるため、それを確認することに固執したかもしれない。兄や本人が積極的治療を希望する理由や、兄弟の関係性について知ることなどでできればよかった。思いを表出されないというが、離床困難な状況でもトイレに行くことを希望されるなど、意志を伝えることはしっかりされているといった、意見交換がされた。	
<b>【他施設からの意見】</b> ・化学療法を3年間してきた方であり、外来との情報共有ができれば、A氏がどういう思いでいるのか理解する手掛かりとなったのではないだろうか。 ・DNARを何度も確認されることは兄にプレッシャーをかけていたろう。それより弟への思いなど聞いていけたらよかった。入院後もA氏が思いを表出しているタイミングはあり、そこを逃さずに関わっていくことが大切。	
ミニレクチャー	テーマ: ケアを振り返り明日の看護に生かすデスカンファレンスを行なうために * 通信トラブルにより時間がなくなり、中止となった